明賀　孝子　議員



質問①

ミルク給食について

問

①現状の検証

　様似町の学校給食における牛乳の提供量、飲み残し量、年間経費はどの程度か。

②必要性

　成長期の児童生徒に必要なカルシウム等の栄養について、牛乳を必ず提供することが最適な方法なのか。

③子供の選択

　牛乳を飲めない、あるいは飲まない児童生徒に対し、代替え商品を提供する（豆乳意外）などの対応を行っているのか。

④食品ロス

　牛乳飲み残しの削減に向けた取り組みは行っているか。

　北海道の酪農・乳業を支える観点から、道産・地元業者牛乳を学校給食に活用する事をどう考えているか。「従来から牛乳を出している」という理由ではなく、現在の子供達の栄養状態、嗜好、費用、食品ロス等を踏まえ、ミルク給食のあり方を改めて検討すべきではないか。

答①　提供量は小中校で年間３万６６９３本、経費約２２２万円、１個あたり約60円、飲み残しに関しては継続的な記録は取っていない。飲んでいる児童は９割、生徒６割と認識しており、残りは確かに食品ロスとなっている実態がある。

②　学校給食法施行規則において成長期の子供には大人以上にカルシウムが必要で１日の必要量の50％を給食接種出来るよう設定され、牛乳は良質な蛋白質、ビタミンなども取れる食品で必要であると考えている。

③　乳製品アレルギー、乳糖不耐症などがる場合には代替え提供する考えはある。食育指導の観点からも少しずつ飲めるようにしている。状況を保護者に確認の上、代替品の対応を検討する。

④　無償化を契機に飲み残しは減っている感がある。部活後などにも飲んでいるようだ。北海道で年１回牛乳業者の落札があり、メーカーが指定される。それに従って納入しないと補助金が使えない制度になっている。こちらでは、コントロール出来ない。



質問②

西町防災施設さまーるについて

問　６月15日から共用されている避難施設さまーるがフェイズフリー型施設として活用される今後について伺います。

①基本的な考え方について

　災害時だけ使用する施設ではなく、平時から住民が利用でき、災害時にはそのまま避難生活に移行できる「フェイズフリー」の考え方を取り入れた施設ですが、現在、町としての取組は。

答　様似町広報誌において、建物の概要、利用の仕方等町民にもお伝えし広く利用を促しているところです。これまでの利用は、町で行っている防災塾で１度、幼児センターの子育てサロンでの利用となっています。

問　②平時の具体的な利用について

　高齢者の健康づくり・介護予防・子供や高齢者の居場所・地域交流・サロン・防災講座・防災訓練、体育・軽スポーツ・地域イベント、コワーキング・学習スペース・カフェスペースとしての活用など、近年の計画等あれば伺いたい。

答　具体的な計画は現在持っていません。高齢者の健康作りや地域交流の場、防災講座イベント、コワーキングスペースなどに利用頂きたい。今後町民への周知を図り、町行事等有効利用をして行きたい。

　新しい施設なので足を運んでもらいたい。

問　提案として、さまーる、救助艇などを利用しての宿泊キャンプ、イベント等行ってはどうでしょうか。

答　それらの有効な活用方法も検討して行きたい。



水野　洋一　議員

質問①

成人・高齢者保健の推進スマイルドックについて

問　8月上旬に自治会配布された町のチラシ、スマイルドックについて、概略説明をしてほしい。

答　スマイルドックは、広尾国保病院が独自に行っている、CT・MRIを活用した検診で、短時間で高精度、体への負担も少なく、町が助成することにより受診しやすい価格帯となっております。

全てのコースに共通して、問診、身体計測、血圧測定、血液検査、尿検査が基本項目としてあり、さらに目的に応じて、6つのコースに分かれています。

頚部から骨盤部までの主要臓器のがんの有無を調べる「がんコース」、脳梗塞、動脈瘤などの有無を調べる「脳コース」、心臓の冠動脈の石灰化及び心筋梗塞などの発症リスクを調べる「心臓コース」、膵臓がんの有無を調べる「膵がんコース」、肺がんの有無を調べる「肺がんコース」、乳がんの有無を調べる「乳がんコース」の6コースです。

さらに複合コースとして、がんコースと脳コースを合わせた「がん・脳コース」、がんコースと心臓コースを合わせた「がん・心臓コース」、がんコースと心臓コース、脳コースを合わせた「がん・脳・心臓コース」があります。

検査料金はそれぞれの通常料金から、40歳以上の町民が無料で受診できる特定健診費用、8992円を差し引いた額の3割相当分を自己負担額として設定しています。

また、満40歳・50歳の方は節目の年齢として町助成を5万円上乗せしています。

対象者は様似町に住所を有する40歳以上の方とし、加入している健康保険の種別は問いませんが、勤務先で人間ドックなどの同等の検診が受けられる方は対象外としております。

問　このシステムを実施しようとした、最大の理由はなんですか。

答　実施しようとした最大の理由は、従来「日帰り人間ドック」という事業名で、浦河赤十字病院にて検診を実施しておりましたが、医師及びスタッフの不足を理由に、令和6年度から検診の対応ができないことになりました。これを受けて近隣で代わりに引き受けてもらえる医療機関を探したところ、広尾国保病院にて対応いただけることになり、令和7年度から実施しております。この度、広尾国保病院にて住民周知用のチラシを作成していただきましたので、令和8年8月7日に自治会へ全戸配布しております。

また、令和8年度から、新ひだか町の日高徳洲会病院でも日帰り人間ドックを実施できることとなりました。日高徳洲会病院の検診内容については今後周知させていただく予定です。

問　このシステムを実施するに際し、町の経費はどのくらい発生するのか。

答　日帰り人間ドックの受診者は、受入れ出来なくなった令和6年度を除いて、これまで毎年10名前後で推移しております。

費用については選択するコースでも変わりますが、令和8年度は20名の受診を見込み、4款1項3目に日帰り人間ドックの委託料として51万8千円を計上しております。

問　様似町のがん検診の受診率が低い状況について

答　がん検診の受診率は、お話にあったとおり低い状況にあります。受診の勧奨も行っているのですが、なかなか受診者が伸び悩んでいる状況です。

今後も、広報や保健センターに来られた方に対しても、がん検診の必要性を訴えてまいります。



